

木造建築物の耐震診断による安全性の確保

このテーマのキーワード	耐震性能の把握・確保、建物の保存、人命の確保
関連するSDGs 開発目標	 

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

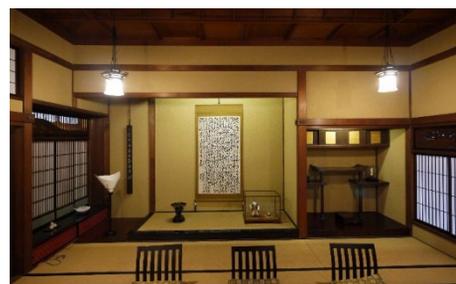
1981年以前に建てられた木造建物は、現在と耐震規準が異なるため耐震性能が不足している可能性が高い。それにより、大地震が発生した際に建物が倒壊して住民が亡くなってしまう恐れがある。そのため、建物の耐震診断を行い、耐震性能を把握し、耐震性能が不足している場合には耐震補強を行うことにより耐震性能を確保が必要である。また、一度壊れてしまったものを元通りに戻すことはとても大変である。壊れても軽微な被害に抑えることで、改修も容易にでき建物の長期的な使用が可能となる。

(概要)

大正9年に建てられた木造の客殿について耐震性能を把握するために耐震診断を行ったところ耐震性能が不足していたため、耐震補強設計、耐震補強工事を行い耐震性能を確保した。

(期待される効果)

耐震性能を把握したことにより建物の使い方に関する方針を決定する材料となった。耐震性能を確保したことにより、今後も安心して建物を使い続けることができる。



内観写真



外観写真

想定される適用分野・用途・業界

- 住宅メーカー、金物メーカー
- 設計事務所、工務店

産業界へのアピールポイント

- 耐震診断・補強設計・補強工事についてアドバイス、講習会を行うことが可能です。
- 耐震補強技術の開発のための実験を行うことができます。

建設学科 芝沼 健太 講師

このテーマに関するお問合せ ものづくり研究情報センター
E-mail : mric@iot.ac.jp TEL : 048-564-3880

進化する技・深化する知
 ものづくり大学
INSTITUTE OF TECHNOLOGISTS